

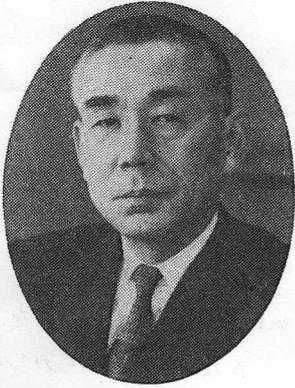
第一次アジア親善邦楽演奏キャラバン

クワイ河医学踏査隊

報 告 書

目 次

1. 学 長 挨拶	1
2. 隊 長 挨拶	2
3. 趣 意 書	2
4. 隊 員 名 簿	4
5. 発 足 からの 経 過	5
6. 目 程	6
7. 地 図	6
8. 第一次アジア親善邦楽演奏キャラバン活動	
◦ 邦 楽 の 流 れ	8
◦ バ ン フ レ ッ ト	9
◦ アンケートの結果	9
◦ 演 奏 活 動	11
◦ タイ学生の感想	12
◦ 反 省 と 展 望	22
9. クワイ河医学踏査隊活動	23
◦ 見 学 記 録	23
◦ パコダ農場における活動	27
◦ 反 省 と 展 望	34
10. 雑 感 集	35
11. 健 康 管 理	39
12. 援助をいただいた方々	41
13. 装 備 リ ス ト	42
14. 会 計 報 告	43



あ い さ つ

岡 山 大 学 学 長

谷 口 澄 夫

去る6月20日夜、菅波茂(医)村尾祐(法文)両君が拙宅を訪ねて、第一次アジア親善邦楽演奏キャラバン・クワイ河医学踏査隊を編成して、8月1日から4週間の予定で実施する計画をすすめていることを語り合った。その目的・趣旨は、まず邦楽を通じて風土や文化の異なるアジア諸民族との精神的連帯感を深め、国際的文化交流を計りつつ平和への道をひらきたいこと、およびタイ国クワイ河流域の無医地区での医療調査・奉仕を通じて、同国との親善のかけ橋にでもなればという点にあった。

私はかねてから国際的な学術文化交流の重要性に着目し、既に数回の海外出張の体験をもっていたし、とくに去る1月に豪州・東南アジア各地を視察した生々しい経験を回想しながら、両君の語る計画に積極的な共感を覚え、私の立場からできるだけの援助を惜しまぬことを約束したのである。

その後早々の間に、一行が歴訪する諸国のもろもろの大学・公館および関係方面への依頼状を認めながらも、一行が無事かつ有意義に所期の目的を果たしてくれることを祈る一念で一杯であった。

7月31日岡山駅頭に一行を見送って以来、彼等は刻々と活動状況を報告してくれたので、「仲々やっているわい」と安堵して帰国を待った。今ここに一行の詳細な報告書が作成されるという。彼等の貴い足跡を明らかにして自らの反省に資することになるだろうが、同時にこの報告書は、各地でお世話になった方々へのこの上ない謝恩となるであろうと確信する。

最後に、一行にご援助・ご後援を賜った多数の善意の方々に対して、この紙上をかりて私からも衷心から深謝申しあげる次第である。

あ い さ つ

隊長 菅 波 茂

日本ではこれから本格的な冬に入ろうとしています。東南アジアは色とりどりの花が咲き乱れる一年中で最も快適な時期になっていることでしょう。

私達28名が邦楽、医学を通して民族の接点を求めんと中華民国、タイ、ネパール、インドを訪れましたのは、まだ雨期のあけきれぬ8月でした。最初の試みなので、いかなる成果が得られるか予想もつかぬなかを1ヶ月間にわたり、吹いて弾いてと夢中でかの地の人々の間に飛び込みました。荒けずりな八方破れの活動ながら、これによって私達の得たものは邦楽、医学といった具体的なものを通しての精神的連帯感への確信でした。今後共、このような活動が二次、三次とひきつがれ、国際文化交流の日常化の基盤のもとに、他民族との接点が拡大されんことを祈ってます。

最後に私達の活動に深い御理解と暖かい御援助をくださった方々に深く感謝いたします。



〔台湾大学附属病院見学後、玄関にて、林先生を囲んで〕

クワイ河医学踏査隊 趣意書

今日めざましい医療進歩の陰に無医地区等の矛盾せる問題があることを私達は医学徒として見のがしてよいはずはありません。またこの問題は国内に限らずアジア諸国においても、人々から病苦を駆逐し健康を増進させるために真剣に考えなければならないと思います。

私達はこの問題の解決のため、より身近な問題の探求、より広い経験の必要性を認め、フィールド活動の場を求めておりました。今回クワイ河地区にあるパコダ農場、クワイ河開発協力隊の協力を得ることができ、その計画を実施に移すことになりました。

現在タイ国クワイ河地区に医療機関は絶無といってよく、私達のこのささやかな調査がその無医地区の医療水準の向上に貢献し、ひいてはタイ国との親善のかけ橋となる事ができればこれにまさる喜びはありません。

なおこの調査報告は日タイ協会、海外技術事業団、WHOなど各方面に送られる予定です。

第一次アジア親善邦楽演奏キャラバン趣意書

東と西、更には北と南の対立が現在ほど激化している時はありません。対立が増せば増すほど不安が強くなります。それだけに平穏を望む気持ちは、誰の心にも切実であると思います。だからこそ何らかの意味で心の接触を待ちながら、わずかでも平和への希望をつなぎとめようと願うのが人間の気持ちだと思います。

私達は、学生としてではありますが、日本の文化的風土の中で育まれてきた伝統的音楽である邦楽を心から愛し演奏活動によってその精神を追い求めているものです。この邦楽を通じて文化風土の異なる他の民族との精神的連帯感を深めることができればこれほどの喜びはありません。その上更にこういった邦楽を通じての国際文化交流が平和への道となるならば……。

今回私達学生は、アジア諸国—中華民国、タイ、ネパール、インド—をまわり現地で活動を行うことで、これらの国々の人々と話す言葉は違っても音楽により共通の心のふれあいの場を持ち、文化を通じての本当の日本の姿を理解してもらいたいと思い、この度演奏キャラバンを結成しました。

隊 員 名 簿

隊長	菅波 茂	キャラバン隊, 踏査隊 岡山大学医学部六回生
副隊長	多田 恵一	踏査隊 岡山大学医学部五回生
会計	西 光雄	踏査隊 岡山大学医学部五回生
会計	楠 えみ子	キャラバン隊 岡山大学法文学部四回生
会計	中川 孝夫	キャラバン隊 大阪府立大学工学部三回生
会計	伊藤 順子	キャラバン隊 広島大学教育学部三回生
隊員	脇口 宏	キャラバン隊, 踏査隊 小児科医
	野上 浩実	踏査隊 岡山大学医学部五回生
	川田 清弥	踏査隊 京都府立医大
	二宮 浩	踏査隊 横浜市立医大
	村尾 裕	キャラバン隊 岡山大学法文学部四回生
	横井 功	キャラバン隊, 踏査隊 岡山大学医学部三回生
	大森 多恵子	キャラバン隊 岡山大学教育学部四回生
	中川 博憲	キャラバン隊 広島大学工学部三回生
	篠原 由利子	キャラバン隊 広島女子大学三回生
	大林 孝江	キャラバン隊, 踏査隊 岡山大学看護学校三回生
	包国 忍	キャラバン隊, 踏査隊 岡山大学看護学校三回生
	近藤 雅子	キャラバン隊, 踏査隊 岡山大学看護学校三回生
	篠塚 とも子	キャラバン隊, 踏査隊 岡山大学看護学校三回生
	矢次 文子	キャラバン隊, 踏査隊 岡山大学看護学校三回生
	片山 茂人	キャラバン隊 岡山大学工学部二回生
	池田 寿	キャラバン隊 広島大学教育学部二回生
	縄巻 修己	キャラバン隊 広島大学文学部二回生
	黒川 敏子	キャラバン隊 サンフロー株式会社勤務

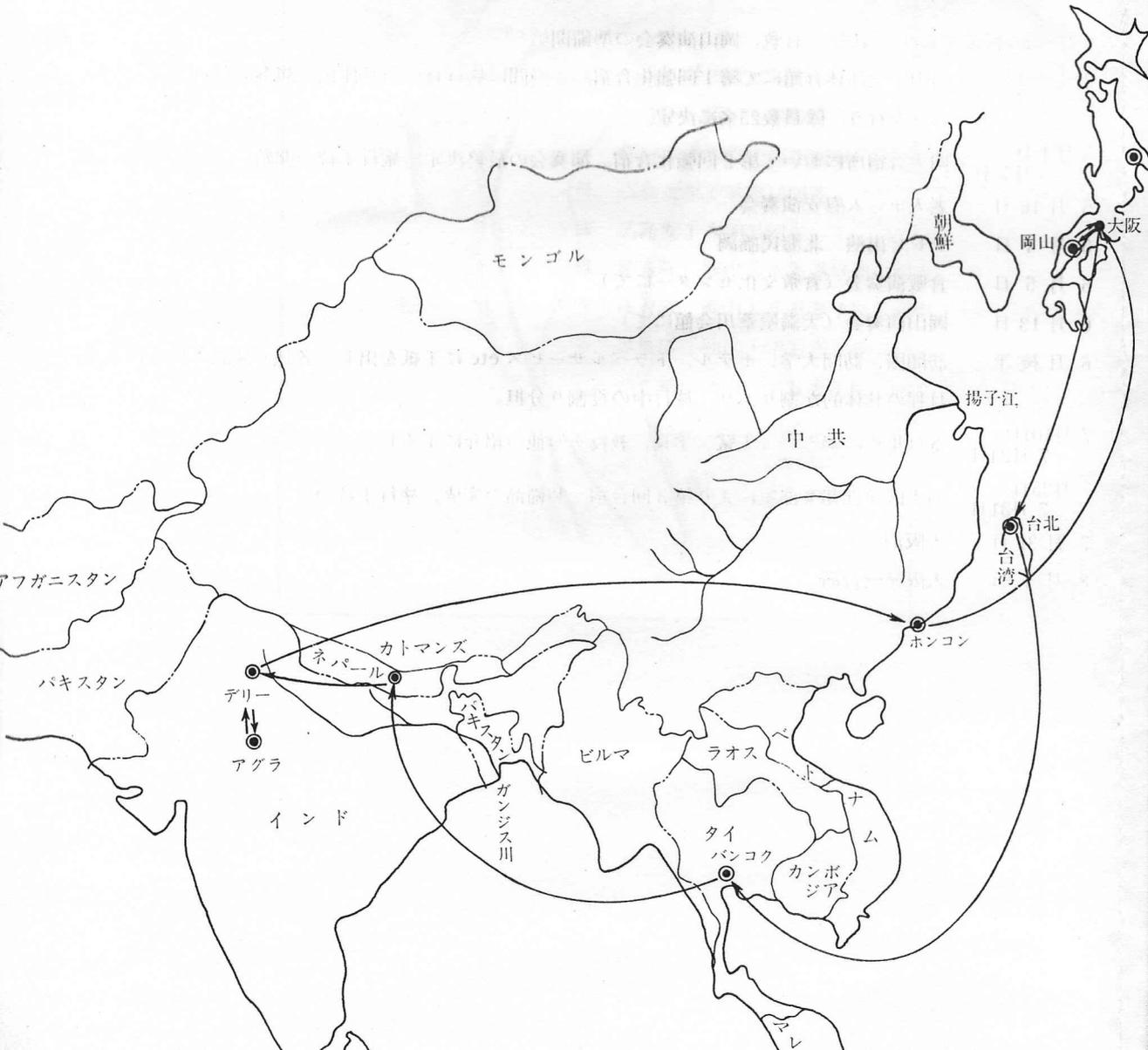
キャラバン隊，踏査隊，発足からの経過

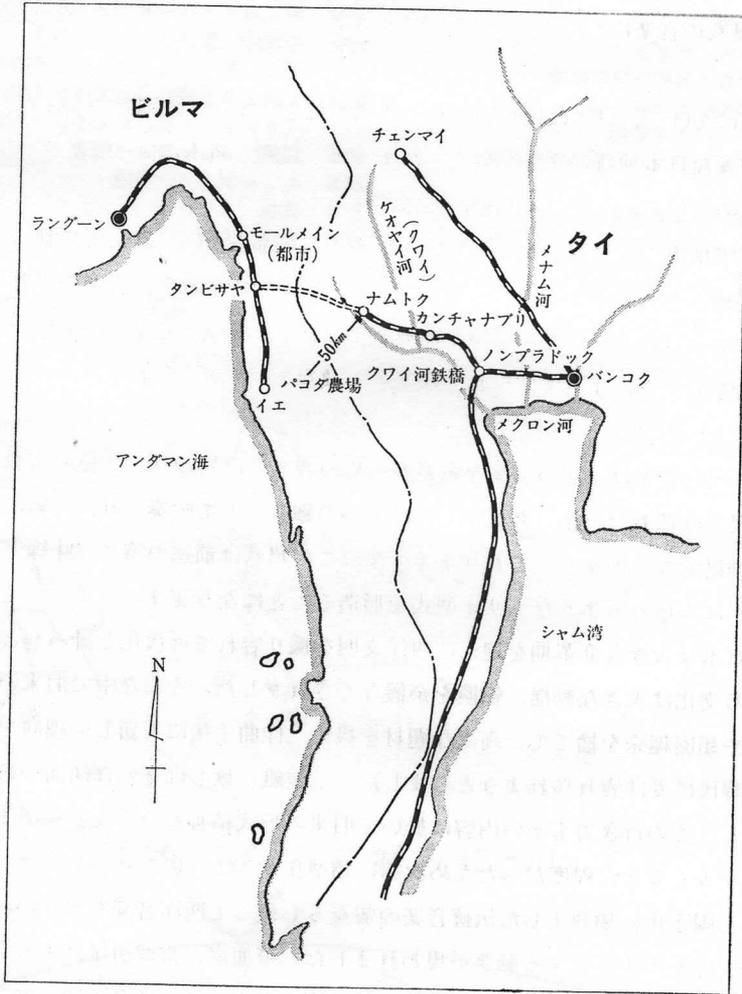
- 9月中旬 隊長菅波の発案にて15人が最初集り，第1次アジア親善邦楽演奏キャラバン隊を結成する。曲目選択，旅行日程，コースなどの思索に入る。全員，持ち曲の練習，資金貯蓄のためのアルバイト，英会話を開始する。
- 10月中旬 演奏曲目，茶音頭，春の海，嵯峨の秋，北海民謡調，懐月調を決定する。
- 12月25日 倉敷のクワイ河協力隊の長瀬氏を招いて話を聞く。永瀬氏よりパコダ農場の話があり，医学踏査隊を結成する。隊員も広島大学，岡山大学，その他五大学に及び人数も30名近くに達する。
- 1月中旬 旅費の関係でコースをインドまで延長，広大の二人と初顔合わせ。趣意書の作成開始。
- 2月～3月 訪問国の決定。倉敷，岡山演奏会の準備開始。
- 3月31日～
4月7日 岡山医学部体育館にて第1回強化合宿。この間に旅行日程の具体化。演奏会の打ち合わせを行う。隊員数25名に決定。
- 5月1日～
5月5日 岡大合宿所において第2回強化合宿。演奏会の最終決定。旅行手続の開始。
- 5月16日 老人ホーム慰安演奏会
- 6月4日 テレビ出演 北海民謡調
- 6月5日 倉敷演奏会（倉敷文化センターにて）
- 6月13日 岡山演奏会（天満屋葦川会館にて）
- 6月後半 訪問国，訪問大学，ホテル，トラベルサービス etc に手紙を出し，各種の確認。旅行日程の具体的な割り振り，旅行中の役割り分担。
- 7月10日～
7月24日 寄付集めに廻る。（先輩，学長，教授その他の紹介による）
- 7月25日～
7月31日 岡大医学部邦楽部室により第3回合宿。装備品の完成，旅行手続の完了。
- 7月31日 大阪泊
- 8月1日 大阪発→台湾

旅行日程

(昭和46年8月1日～8月28日)

- | | |
|---|---|
| 1日 大阪→台北 | 12日 休息 |
| 2日 午前中、台湾大学附属病院見学
午後より演奏活動 (於料亭「銀座」) | 13日 午後チュラルンコン大学医学部見学及び同大学にて演奏活動 |
| 3日 台北→バンコク | 14日 バンコク→カトマンズ |
| 4日 午前中、クルーク大学にて演奏活動 夜、ドゥシタニホテルにて日本人会対象の演奏活動 | 15日 観光及び路上演奏 (尺八のみ) |
| 5日 午前中、シリラージ病院見学
午後、テレビ出演 | 16日 カトマンズ→ニューデリー |
| 6日 バンコク→カンチャナブリ
午後、泰緬鉄道日本軍慰霊碑に献曲
夜、現地の女学校にて演奏活動 | 17日 観光 |
| 7日 カンチャナガリ→パコダ農場 | 18日 ニューデリー→アグラ |
| 8日 医療調査 夜、現地の人を対象に演奏活動 | 19日 午前中、救ライセンター見学
午後、救ライセンターにて演奏活動 |
| 9日 医療調査 | 20日 これより2班に分れてインド国内旅行
(カンミール班、ジャイプール班) |
| 10日 パコダ農場→カンチャナブリ | 25日 二班、ニューデリー帰着 |
| 11日 カンチャナブリ→バンコク | 26日 ニューデリー→香港 |
| | 27日 休息 |
| | 28日 香港→大阪 |





第1次アジア親善邦楽演奏キャラバン隊活動

邦楽の流れ

一口に日本音楽といっても、実に沢山の種類があります。それでここでは私達の手がけている琴、三味線（地唄）、尺八の音楽についてその流れを中心に、ごく大まかに述べるのに止めてみたいと思います。

17世紀～19世紀にかけて、日本は比較的平和な時代が続き、また、外国との交流があまりなされなかったために、様々な日本独特の文化が形成されました。現在、日本に伝えられている伝統音楽で最も大きな位置をしめているのが、この時期に形成されたものです。

この時期を通じて地方では民謡が徐々に形成される一方、都市では、歓楽街や劇場を中心として、商工人層によって様々な音楽が生み出されました。そうした中でこれらの音楽の影響を受けつつ家庭音楽として徐々に形成されていったのが箏や地唄とよばれる三味線の音楽で、主に「檢校」などという位をもつ盲人音楽家たちによって作られ、婦女子の教養として教えられました。「茶音頭」はその代表的なもののひとつです。

これに対して、尺八音楽は上記のような娯楽のための音楽とは異なり、一種の宗教音楽として生まれたものです。尺八は仏教の一派（普化宗）のひとつの修業として吹奏されたために、その内容はきわめて哲学的、神秘的なものをもっております。後にこの尺八は前述の箏や三味線と合奏するようになり、「茶音頭」にみられるようなトリオ型式を形造ることになります。

19世紀中頃、日本は大きな変革期を迎え、西洋文明を採り容れて近代化を計ろうとする動きがおこり、日本の旧来の文化は大きな動揺、転換を余儀なくされました。そんな中で旧来の日本音楽はこれまでの享楽趣味や頹廢趣味を捨てて、高尚な題材を扱い、作曲手法にも新しい趣向をとり容れることによって新しい時代に受け容れられようとしてしました。「嵯峨の秋」はそんな傾向のあらわれた曲のひとつです。しかし、この行き方もその内容に於いて旧来の形式精神をほとんどそのまま踏襲したまま、目先の趣向を少し変えた程度だったため次第に類型化するようになりました。

20世紀に入ると固定化、類型化した伝統音楽の殻をうち破って西洋音楽をとり入れることによって新しい日本音楽を作り出そうとする動きが現われました。箏曲家、宮城道雄はその中でも最も偉大な作曲家であり、「春の海」「虫の武蔵野」「北海民謡調」などは彼の作品です。同じ頃、尺八に於いては中尾都山、上田芳憧などがあらわれ、尺八の近代化に尽くしました。「懐月調」は中尾都山の「冥想」は上田芳憧の作品です。「春の宴」は比較的最近に作曲されたものですが、上記のような伝統的音楽の演奏家による作曲の系統を引くものです。

これに少し遅れて西洋音楽の作曲家として育った人達の中からも伝統音楽に取り組もうとする動きが見られるようになりました。諸井誠、武光徹などの人々がそれで、「竹籟五章」は諸井誠の作品です。

このような最近では伝統音楽にも新しい音楽理念を持った作曲家達によって様々な試みがなされており、少しずつその姿を変えつつあります。

(村尾)

演奏会用パンフレット

これは日本国内に於ける演奏会用のパンフレットの説明を簡略化したものです。

このパンフレットを英語、中国語、タイ語に訳し使用しました。

一. 春の宴 三上澄恵 作曲

春の明るさ、のどかさを軽やかにまとめ、中にわらべ唄のメロディーなども織り込み、春の喜びを賛えたものです。

二. 嵯峨の秋 菊末検校 作曲

仲秋名月下、京都西郊のものさびしい嵯峨野のあたり、土が単騎琴の音をたよりに今は隠棲しているかつての帝の寵姫小督の局を訪ね歩くという日本の古い物語を題材にとった曲です。

三. 瞑想 上田芳懂 作曲

小高い丘の芝の上に座して悠久たる空を眺めつつ、何思うでもなくぼんやりと瞑想にふける感興を尺八独奏曲をまとめたものです。

四. 茶音頭 菊岡検校 作曲

歓楽街に日を送る遊女の恋の歌ですが、茶の湯の様々な道具にことよせているため、茶の湯の席で演奏されることもあります。

五. 竹籟五章 諸井誠 作曲

作曲者は西洋音楽系の作曲家ですが、古典尺八の中にある思いがけない現代的感覚に驚嘆し、深い共感を抱いて現代の尺八曲を作曲することを思いたち、完成させた第一作です。この曲の発表は邦楽界に現代的な息吹きを吹きこみ、その後の現代邦楽に大きな影響を与えました。

「竹籟」とは、竹が風に吹かれてたてる音、転じて笛の異称です。

六. 春の海 宮城道雄 作曲

島々の点在するのどかな春の海の情景を表現したものです。

七. 懐月調 中尾都山 作曲

月明りの下で胸中を去来する懐いを表現したものです。

八. 虫の武蔵野 宮城道雄 作曲

月の夜、秋の野に鳴くさまざまな虫の音を表わしたものです。

九. 北海民謡調 宮城道雄 作曲

日本の北部地方の漁民の間に歌われている二つの民謡、「そうらん節」「江差追分」を箏、尺八、胡弓による合奏曲にまとめたものです。今回は「胡弓」のかわりにヴァイオリンを用いております。

海外での曲の好みについて

東南アジア方面における初めての邦楽演奏活動とあって発足当初より隊員はもちろん、その計画を知る人の共通の疑問点として“一体邦楽が外国でどのように理解されるであろうか”ということがあった。

日本に於いても、さまざまな音楽のうずまく中での邦楽の立場は非常に微妙なものである昨今、まず聴衆の反応を一片にはすぎぬとは思いが知り得た。

外国では言葉の問題もあり文字としての結果は十分に得られなかったが、あとに述べる各会場での演奏活動報告とともに、その結果をここに発表する。

① 方法は実験計画法により、直交表 $L_8(2^7)$ にわりつけ、得点は各列番に対応する自由度1の主効果を a, b, c, d, e, f, g とし、一般平均を m とすれば T^i の母平均 μ^i は

$$\mu^i = m + \sum_{p=a}^g p^i$$

と表現されるので各々の μ^i を推定し、そのZ得点をもって各曲のその地での演奏の点数とする。曲数が8曲以外の時には擬因子、一部追加法を使用した。

② 残念ながらアンケートに完全に答えてくださった方は

倉敷 42人 岡山 147人 チュラルンコン大学 87人
 日本人会（返答者は全て日本人） 21人

と少なかったので、男女別、年齢別は計算しても信頼度が低下するのみなので中止することにした。

③ 結果

		倉敷	岡山	チュラ	日本人
〔本 曲〕	竹 籟 五 章	39.6	40.5	/	32.6
	懐 月 調	39.3	46.1	35.7	/
	暎 想	39.6	38.8	/	40.7
〔古 曲〕	嵯 峨 の 秋	40.9	33.3	/	54.7
	茶 音 頭	57.8	51.5	41.4	52.8
〔新 曲〕	虫 の 武 蔵 野	55.2	65.0	47.8	/
	春 の 海	51.3	55.4	59.3	60.2
	春 の 宴	59.1	52.1	50.4	/
	北 海 民 謡 調	67.8	64.0	65.5	58.5

この表の見方

この表に書いてある得点は、各地の演奏会にて各曲が得たそれぞれの得点を、偏差値になおしたものです。この値の平均は50、標準偏差は10となり20~80点の間に全体の99.7%が入っています。この偏差値を使うと、①他の会場での得点と比較できる ②ある曲の得点が全体の中で占める位置を確かめうる。ので、日本人会で演奏した「嵯峨の秋」は、倉敷での「春の海」より得点が上であった、と言えるわけです。

次に日本での演奏と海外での演奏のおのおのの平均をとってみると、

		日 本	海 外	() 内は日本人会を含む
〔本 曲〕	竹 籟 五 章	42.3	(32.6)	} 36.3
	懐 月 調	42.7	35.7	
	暎 想	39.2	(40.7)	
〔古 曲〕	嵯 峨 の 秋	37.1	(54.7)	} 50.9
	茶 音 頭	54.6	(47.1)	
〔新 曲〕	虫 の 武 蔵 野	60.1	47.8	} 55.0
	春 の 海	53.3	(59.7)	
	春 の 宴	55.6	50.4	
	北 海 民 謡 調	65.9	(62.0)	

さて以上の結果を分析してみたい。これには各曲のでき、不でき、が大きく得点に作用して来るとは思うが、以上の事柄は推測しえると思う。

- ① 国内でも海外でもはでなものの方がより好みが高いようである。例えば全体的にじみになりがちな古曲の方よりも全体的にはでに聞こえがちな新曲の方が得点が高いし、同じような新曲の中でも、人数が多くパート数の多い「北海民謡調」等の方が得点が多いという事がある。
- ② 表意的なものより、表影的なものの方が好まれている。例えば、お茶にたくして遊女のうんぬん、と言う「茶音頭」、竹の鳴る音と言う「竹籟五章」等よりも、春の瀬戸内海を写した「春の海」、武蔵野に秋鳴く虫を写した「虫の武蔵野」等の方が得点が高いのである。
- ③ 一般に知名度の高いものの点数が良い。例えば、ルネ・シュメーの編曲によりヴァイオリンでも奏された「春の海」や、かつてタイ人歌手によって歌われタイで良く知られたソーラン節を含む「北海民謡調」などの点数が高いことがあげられる。

アンケートの例

下記の8通りの組み合わせ、それぞれのうちで、お聞きになって、良かったと思われる方に○をつけて下さい。

[2-3] [2-6] [2-1] [1-4] [3-5] [3-4] [6-5] [1-5]

各地における演奏会の活動

台湾における演奏会活動

日時 8月2日 PM7.00~11.00
場所 台北市 日本料理店「銀座」
形式 林氏を囲んでのパーティ形式
観客 約20名 日本人少数 (林廻恵氏…岡大医学部先輩, 台北鐵路医院副院長)
曲目 ① 春の海 ② 懐月調 ③ 虫の武蔵野 ④ 春の宴

正式曲目として、以上4曲を演奏したが、酒宴であったため余興ともアンコールともつかず「そうらん節」「よさこい節」「追分」など続々登場。三弦もの「黒髪」「茶の湯音頭」はなかなか好評。琴の代表曲と思われる「春の海」は案外と知られていないようで、派手な「春の宴」等に人気が集ったようであった。

着物の着付けは不慣れのため手間どったが、邦楽に着物が必要であることを痛感した。非常に好意的な雰囲気であった。

台湾は現在戦時体制のため、琴を2面しか持ちこめなく曲目が限られてしまったのが残念である。また、連絡が遅れたため、正式な演奏会場を獲得できなかった事も残念であった。(楠)

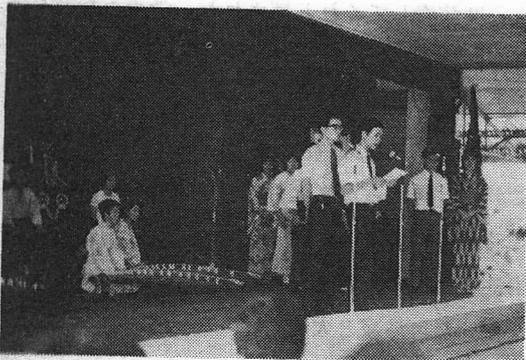


〔林先生をはじめ台湾の方々と演奏のあとで〕

クルーク大学にての演奏活動

日時 8月4日 (一部) 10.00~11.00 (二部) 11.30~12.30
場所 クルーク大学講堂(屋根つき屋外ステージ) 照明有, 調絃室有
音響効果 マイク使用により音量はあったが、演奏会を鑑賞する雰囲気は出せなかった。
形式 ステージ
観客 数1800名 一部と二部の入れ替えをやった。対象は学生と学生職員
曲目 (一部) 北海民謡調 懐月調 春の宴 嵯峨の秋 虫の武蔵野
(二部) 北海民謡調 竹籟五章 春の宴 虫の武蔵野 (さくら, ソーラン節etc)

反応: クルーク大学学生による独特なるタイ音楽をバックにした華麗で優雅なタイダンスとの交歓により、いっそう雰囲気が高まった。熱心に聴いてくれ、非常に好意的であった。最後にソーラン節を歌い、観客に手拍子をもらい、舞台と観客が一体となった感じであった。



〔パパット君の司会により私達のグループはクルーク大学の学生に紹介された〕

ここで特に述べさせてもらわなければならないのは、日本人学校そしてこのクルーク大学の日本語教師をされている佐藤先生の私達の活動に対する深い御理解と御協力です。当日も最前席から私達の演奏活動を暖く見守って下さり、また司会は先生の愛弟子であるパパット君によりなごこかに進められました。彼はタイにおける全演奏活動の司会を続けてくれ、私達とタイの人達との相互理解のかけ橋となってくれました。私達の演奏を全学生に観賞させんがためにと、午前午後の授業をふり向けて下さった理事長と共に、佐藤先生、パパット君にあらためてここで感謝を述べさせていただきます。

クワイ河無医地区住民の健康管理の

ための基礎調査の反省と展望

—東南アジア少数民族の自主的医療委員会
による保健センター設立運営をめざして—

私達は今回の調査でクワイ河無医地区における寄生虫の蔓延を明らかにした訳ではありますが、この結果は単に寄生虫のみでなく、他の風土病の蔓延も容易に推察さすものであります。私達の貧しい技術、資材による診療にすら、多くの地区の人々が晴着姿で相談に来たという事実は、この地区における医療問題の深刻さを暗示しています。端的に述べますならば、このクワイ河諸地域に近代的病院や保健所を直ちに設置するという事は、その前提条件となる住民の啓蒙、環境整備などの点からタイ政府あるいは諸外国に依存すること少なくして、その成立が困難であることからみて、必ずしも最も良い方法であるとは考えられません。従って、当面私達は住民の主体的な保健委員会及び保健センターの設立運営が現実的に最も可能的手段であると考えます。なぜならば、この住民主体による地域健康管理方式は、東南アジア少数民族の医療方面における自立的発展のための原点となり得るでありましょうから。更にバコダ農場におきましては、以下に述べるように極めて高度の文化水準を有しており、最初のモデルケースとしての諸活動が十分維持できると思われれます。

次にその根拠を具体的に述べてみよう。

＜バコダ農場に保健所を設置する理由＞

(立地条件について)

カンチャナブリ県にはカンチャナブリ国立病院が一つあるのみで、農産物の集散地からビルマとの国境に至るクワイ河周辺に医療機関は全くない。

(組織力について)

10年前より組織的に農場開発を行っており、民間によるタイ国随一の農場であり、リーダーのヤップ氏のもとに強い団結力を有している。

(経済力について)

ナムトク市内にもない電力を自家発電により持っており、小規模ながらも保健所的機能を十分に行なうだけの力はあるものと思える。

(医療従事者について)

最初は日本に看護婦の勉強に来ていた人に活動してもらおう予定。次に村の知識階級であり住民を看護する心をもつ僧院の僧侶10人と副農場主バウ氏を主体とする医療委員会の発足させると共に彼等の子供が現在14~15歳であるが、この人達にゆくゆくは日本で看護婦の勉強をさせ、医療委員会を拡大して本格的な保健所活動をやらせよう予定である。

(菅波茂)



【農場における検診風景】

東南アジア旅行について

僕は非常に海外旅行にあこがれていたもので、岡山大学から話しかけられた時、まるで別世界へ行く時のような気持ちであった。それは五月の初めだったと思うが、その時までは、夢にまでもみなかった海外旅行である。好奇心やら不安感やらが僕の心の車をかけ抜ける。だが旅行準備が次第に整うにつれ、不安感が多大に僕の心を占めている気がしてならない。その不安の一つには、外国だから言葉がうまく伝わらないだろう、又、まいごになったら、それまでだろうとかいう、言語的なものであった。もう一つには、僕は一応邦楽を楽しんでいる一人として、どれだけ自分の持っている力量を海外各地の演奏会場で発揮できるかというものである。まあ、いずれにせよ、不安感がつのってきたということは隠しきれないのである。

ついに、出発!! 激しい動悸が起こる。ふと考えてみた。この動悸は何に対するものかと。しかし、結局は、何も考えることはない。ただ生まれて初めて飛行機に乗る、又、この機が墜落するのではないとかいう、ごく自然の、身近な出来事に対するものであった。その時は、海外演奏、旅行などというものは程遠いもののように感じられた。

さあ、いよいよ外国だ!! まず私達が最初に到着したのは、台湾である。しかし、全然、外国へ来たのだという印象は受けられなかった。というのは、香港などと同様、看板などには漢字、もしくは英語で、日本と何ら変らないからだ。その点、タイ・ネパール・インドなどは、さすがに漢字もなく、みみずのはったような英語くずれの文字が圧倒的に多く、何かしら無縁の国のように感じた。いや無縁というよりは、別世界の国と感じたと言う方が正しいかもしれない。人間には、それ程抵抗は受けなかったが、何か異変なものを感じたのだ。

そういう所で演奏をするのだから、精神的動揺のため、満足な演奏も出来ずじまいになるのではないかと、一層不安になってきたのだが、結果は、最低とまではゆかなくとも中の下ぐらいの出来ばえではなかっただろうか。

海外演奏のみならず、未知の地に於ける演奏について、僕の場合は、内気な上に精神的動揺が輪をかけるので、かなり精神鍛錬の必要があるということを強く感じた。まあ、つまるところ、今回の海外演奏旅行は、異国の地に触れて来たという面から見れば、大いに意義ある旅行だったと思う。

(池田)

ネパール

空から見たネパールは、緑一面ののどかないかにも平和という言葉があてはまるような国だった。着陸成功、小さな飛行場だった。国際空港としては、あまりに貧弱だ、貧しい国なんだと直感した。空港のロビーから出て車に乗ろうとすると数人の子供が、車を取り囲んで、タバコをくれと、しきりにねだる。僕が、“子供だからダメだ”と言ったら、“いや私はネパール”のグッドスマーカーだと言う、ほんとは、もらって、売るのではないかと本気にしなかったが、フト横をみると、なるほど、小さな子供がタバコを吸っているのではないか、僕は、タバコや酒で墜落してしまったエスキモーの話を思い出し、少々いやな気になった。

あとで知ったが、ネパールは麻薬に関しても、フリーだそう。ネパールの町並は、タイムマシンに乗って、何世紀か前に遡ったようだった。台北、バンコク、香港とはまったく違った西洋風の建物で、それはほこりをかぶり、いかにも古めかしい、赤茶けたレンガ造りの家だった。その戸口は狭く小さい。その天井は低かった。通りには、面白いことに、道のまん中に車がつかまって止めてある。

多分道のまん中が、駐車場になっているのだろう。

又、牛が多いことに驚く、ユラリユラリと歩き回っている。インド同様、この国でも牛は尊重されているそうだが、何でも車で牛をはねると、20年の刑だそうだが、歩道のまん中で、ゴロンと横になって寝ている者もいる。首都カトマンズとは、まさに信じられなかった。

日本人がよほど、めずらしいのか、人々は、遠慮なく立ち止まって、ジロジロとこちらをみつめるので、少々気味悪かったが、慣れると、人々は、なつっこく人のよさそうな顔をしている。路上の散髪屋で、気持よさそうに顔をそってもらっている人がこちらを見て、白い歯をチラッとのぞかせて照れくさそうに、さっき刈ってもらった坊主頭を、なでながら、笑っていた顔は、なんとも愛きょうがあった。

人が、たくさん集まっていたのでいってみると、十二・三歳位の男の子が、手を縛られて電柱にくくりつけられている。そして、水をかけられたり、頭をこずかれたりしていた。僕達が見た時は、大してひどいことはしていないが、隣の人にどうしたのかと聞くと彼はお金を取ったんだと言う。私刑なのだろうか。そういえば、警察官はあまり見かけなかった。街をぬけていくと、その風景は、最高だ、緑の野原、山、その山に低くモクモクと力強く寄りそっている雲、深く青い空、さまざまに咲いた花、思わず、フッとため息が出るのだった。

(中川)

第一次アジア演奏キャラバンに参加して

私がこの旅行に参加したのは、ちょうどこの隊が発足してまもないころであり、実際、行くことに関して私自身半信半疑の気持であった。それから一年間、隊としての準備、個人としての準備(特に金銭的なもの)の練習、英会話の勉強と何かにつけて忙しい毎日であったが、8月1日ついで大阪を出発した時には、今までの忙しい毎日を忘れてしまうほどであった。出発してから台湾を振り出しに、タイ、ネパール、インド、次々に回っていったが、この計画の成果はどちらにしる、日本にはこのような音楽があるということが少しでも理解してもらうことができたのではないかと思う。しかし実際考えて、自分のような未熟な技術で、多数の聴衆を前にして弾いたことを、今思い出したら何だか恥しい気持や、変な勇気がよくあったものだと感心する。日本の伝統的音楽である邦楽に対して現地の人たちは興味の方がより強く、特に楽器の構造や、どのようにしたら音が出てくるのかという点に関心を示している、調べんしているところや、演奏が終ったあと、私たちがいるところへ来て、しきりに質問していた。おそらく私でも初めて見たり聞いたりする機会があるとなれば、同じような関心を示すだろうと思う。

このように最初の目的とは少しかけ離れたところのある演奏旅行であったが、それによっていろいろ体験できたし、また認識をあらたにした点もあるし、私にとって、一年間頑張ってきたそれなりの成果はあったと思う。

(矢次)

私の記録より

8月12日、演奏会のあい間をぬうような今日の市内観光。古い寺院など主にみて回った。その手の細やかなこと。塔、屋根、柱、天井に至るまで。ことに王宮の寺院はすばらしかった。殆んどがきらびやかな装飾で少しばかりうんざりしていた私は、うれしかった。高い天井までの扉に黒地に貝細工であるすばらしいものばかりだった。

でも小さい少年が絵葉書売りをしている。いつまでも追いかけてくる。子供達は……学校へも行かないで……。

台湾でもタイでも感じたこと。赤、緑、黄のあでやかな色彩、金銀を使って思う限り尽したという寺院ばかり。

それで心ゆくのだろうか。心満されるのだろうか。日本民族と、彼らとの育てられた心情の違い。それは、遠い昔から、何百年もの昔から、その風土によってつくられた。美しい四季の中で育まれた。日本人はその自然の中に、なんと美しい心情を育てあげてきたことだろう。日本に帰ったら緑に囲まれた古刹を訪ねよう。そうして、じっとすわって耳をすましてみよう。

ネパールにて

街をずっと歩いた。まるで貧民街のような。じめじめしたレンガ造り、土造の家々、子供達は、丸裸で走りまわっている。子供をおぶった女の人が手をさしのべてくる。道端で店を出しているおばさんのジャガイモは小さくころころで、大根も10cmほどだ。

街を歩くと、人の体臭とカレーの臭いと、牛の糞尿の臭いとドブミズの臭いとがまとわりつく。

たいがいの商売人は日本語で話しかけてくる。日本人の観光客が、たくさんのお金をばらまいてゆくのだろう。コツコツと汗水流して、グチをこぼしながら貯めたお金を。

インドにて

黒褐色の顔の中に白く不気味にさえみえる眼、でも一度話し出すと、人なつこく、何でも話してくれる。前からの友達のように。皆、考えることは同じことなんだなと思う。あたり前のことながら体全体で感じながら、とってもうれしく楽しくなった。

(近藤)

演奏 キャラバン 雑感

今回の演奏旅行が成功であったか、なかったかは一口では断じにくい。趣意書の趣旨の点ではその何パーセントかは果たし得たろうと思っている。ただ、私自身の演奏の出来ばえからすると、不出来であったと言わざるを得ない。強行日程と対外交渉等の雑用にわずらわされて、肝心の演奏がおろそかになったのは最も痛いことであった。他のメンバーもこれを言っているため、趣旨の何パーセントかは随分小さな数字になるに違いない。

私にとって最も大きな収穫はタイやインドの音楽の状況を、極めて部分的、表面的ながら、何となく、薄ぼんやりとはあるが自分の体で以て感じる事ができた点であろう。

タイでは在来民族音楽の衰微と欧米音楽の普及はかなり進んでいるようだった。ジュークボックスの曲はそのかなりの分量がロックがかった曲であった。チュラルンコン大の音楽サークルもギター等が盛んで、民族音楽のサークルはあまり振るわないようである。インドは一般民衆の貧しさということもあってか、タイほど欧米音楽の普及は進行していないようであった。どうもこれは洋服の普及と比例しているらしい。生活が変われば音楽も変わる——これは当然である。しかし、そこには新しいその国ならではのものが生まれなくてはならない。伝統音楽はその時大きな役割を果たすはずである。学校での音楽教育がどうなっているのか、私は聞いてくるのを忘れたが、日本の文部省の洋楽一辺倒の弊をタイやインドでくりかえしてもらいたくはない。

タイで聞いた音楽に私はある親しみを覚えた。歌の節まわし、二絃胡弓の響きなどは日本音楽と多くの共通性があるように思えた。

また、タイの学生が日本の音楽にはタイの音楽と似た響きがあると言ってくれたのには、友を得た心地がしたものである。

機会があればもう一度アジアの国々をまわってみたい。そこに新しい民族音楽形成への萌芽が見つかるかもしれない。在来の文化と欧米近代文明との断絶の中に自らの文化を作り出そうとしている朋がそこに居るからである。

(村尾)

旅行感想文

私にとって今回の演奏旅行は、決して後味の良いものではなかった。それは、私達の音楽が東南アジアの人々に理解されたとは少しも思えないし、そうさせるだけの技量があまりにもなかったと思うからである。

正直言って我々の演奏は日本においては、はずかしくて、とても演奏旅行などできるしろものではなかったと思う。私は、演奏会場、設備、音響効果、客の態度、演奏の進行など不満が多く、歯がゆくて仕方なかった。

客は異国人に対し興味をもち、服装、楽器は注目をひいたが、肝心の所がぬけていて寂しく思った。私は前から、日本の音楽は、特に、古典などは、外国人にわからないだろうと思っていたが、やはりそうであった。客は演奏の途中であいてしまうのである。特に東南アジアの人々には、もっと激しい物が必要な気がした。日本のしっとり落ち着いた音楽というのはむかないようである。私が特に悲しかったのは、私達の演奏会が自己満足で終わってしまったような気がした事である。 (繩巻)

感想

幼い頃から是非海外でお琴を弾いてみたい、近年特に「ピン」と一カキでいいから鳴らしてみたいと思っていた矢先だったので、大喜びでこの隊に加えてもらった。

幸い会社の休暇も取れた事だし

初めて台湾の土を踏んだ時、何とも言えないほど興奮し、すっかり演奏の事を忘れていたと言っても過言ではなかった。

この私の甘い夢からたたき起されたのは、事もあろうに初の演奏地のこの台湾での時だった。思いの他着替えに手間どって、演奏の前には欠かす事の出来ない琴の御機嫌を伺う事を忘れていた。会場へ着いて、少々不安を感じながら演奏の数十分前に琴柱を立てた。(この事は帰ってひどく先生に叱られたものだった)

さて調子をとった所へ最初の琴の怒り？が爆発して、一の糸が切れた。それからというもの調子を合わしても合わしても少しずつ狂ってきた。

お琴へ自分の気持を伝えたいなら常に楽器への労りを忘れない事、そうすれば思うままになると昔教えられた事を思い出さない訳にはいかなかった。

気温、湿度、その他様々の条件が琴の木の肌に微妙な変化を与えているらしかった。その様な計算を全くしていなかっただけに大変な驚きだった。

例えば、余韻が出ない、いつまでも音がつる等々次々とおこる新しい変化に目を見張るばかりだった。

何はともあれ日本音楽を聞いてもらえて、各国の人と接触できた事は大変嬉しかった。(黒川)



〔一面の琴を運搬できる状態にする
と 30kg の重さ。よく運びまわ
ったものだ〕

隊員の健康管理

出発前に各隊員の健康管理表を作製し旅行中の体温、食欲等、その他体調の変化を毎日記入して旅行中チェックする予定であったが朝のあわたたしさ、夜の疲労のため、不十分なものになってしまった。

今回の旅行で気付いた事は、最初から予想されていた事ではあるが下痢を起し易いという事である。

東南アジアの飲料水は決して清潔とは言い難く加えて市販の清涼飲料水、ビール等には多量の防腐剤が混入している為にそういったものに不慣れた我々の消化器は耐えられなくてすぐに下痢をするという事。加えて南国の灼熱と室内の冷房の間を頻回に出入する事により体調がくずれ易く、感冒と下痢は2~3人の隊員を除いてほとんどが一度は経験している。他に高度の疲労、原因不明の発熱も2~3認めたがこれらは目立つものではなかった。

何分旅先の事で医療設備が無い為異常が認められる者には対症療法と広スペクトル抗生剤の投与くらいしか出来なかったが幸にして我々の隊員には重症感染症を認めず前記の方法で無事日程を消化する事が出来た。

今回の経験で注意すべきと思われる事は、

1) 乗物酔になり易い人は出発前からの過度の緊長や長時間の乗物が予想される時は、精神安定剤を用意しておく必要がある。又、薬用量と個人差に留意して使用せねばならない。もちろんその時の体調も考慮に入れる必要がある。

今回インド→ネパールの機上にて与えたトラベルミンの為に入眠し、熟睡状態(というより stupor に近い)に陥り覚醒し得ずホテルの部屋までかつぎあげて行った例がある。

2) 旅先の飲料水には特に気をつけねばならない。

生水はもちろんの事だが清涼飲料水、アイスキャンデー等も多量に飲食しない事。インドでは紅茶は美味で安価であった。

3) 夜遊びは程々にして睡眠を十分にとる事。

4) 食欲が減退したり、口に合わない国柄の味が有るので時に保存食を持参すれば良い。

我々はウメボン、フクジン漬の種類を持って行った。

5) 旅先で注意を要するのは、カゼと下痢であるが、国によってはまた田舎へ行くと風土病の類が多いので予備知識を持つべきである。コレラや赤痢、マラリヤ、寄生虫 etc は特に注意を要する。我々もタイの奥地で多数のマラリヤ患者や種々の寄生虫患者、アメーバー赤痢と思われる患者等に会った。

次に国によって注意を要する点を2~3述べると

1) 香港、台湾は特に気をつける必要はないと思うが香港のナンキン虫には困った。

2) タイ：街中の露店は不潔極まりない。

奥地は病気の宝庫である。

この国のビールは美味だが、アルコールのパーセントは日本酒より上。

3) ネパール：インド：この両国は不潔の見本であろうか。

この国では「ナマ」と名のつくものは細心の注意を要する。下痢をする者はこの国が一番多かった。しかし食事は美味で安価だし、紅茶は抜群であった。火を通したものは先ず安全と思われるし、ちゃんとしたレストラン、ホテルは大丈夫であろう。

我々はタイで多数の感冒患者を出し、インドで下痢をした。しかし食事、飲料水に気をつけた為、他のパーティーの如くほとんど全員下痢といった事はなかった。

下痢をしたら絶食療法をとるべきだ。

安静にして絶食を一日すればたいてい軽快した。

過食しない事も大切である。

又、疲労の為に疾患寸前の者も多く、我々の隊員で一名原因不明の高熱と下痢を3日間認めた者や、心悸亢進、全身倦怠が著明で摂食不能、絶対安静を必要とした例もある。この例は帰国後1週内に流行性肝炎が発病したので旅行中に感染した可能性が強いが心悸亢進、全身倦怠とは結びつかない。

Summary

タイにて	カゼ	数人	心悸亢進（心不全に近かった）	1人	下痢	数人
インドにて	下痢	10数人				
ネパールにて	高熱、下痢	1人				
香港にて	下痢	2人				

注意すれば、先ず重症感染症は避け得ると信じる。

(脇口)

御援助をいただいた方々

(順不同)

大学関係
学外
土屋教授
林教授
市川教授
田所教授
永岡先生
学内
谷口澄夫教授
妹屋教授
奥田教授
小坂教授
平木教授
大藤教授
砂田教授
児玉教授
木元教授
稲臣教授
西本教授
田中助教
田中講師
虫明学生部長
西尾学生課長
星野学生課員
岡山大学医学部附属看護学校教務
岡山大学医学部学友会
報恩積善会

医療関係
恩賜財団岡山
済生会総合病院
日下連
国立岡山病院
香川県立中央病院
岡山労災病院
中川病院
生長病院

岡山中央病院
岡山中央病院
三浦水島病院
木山病院
蓮井敏子
近藤良一
片山司可志
藤原祐士
後藤淳実
濱本英次
小野田進雄
松田和仁郎
遠藤仁昭美
山本見哲夫
塩前田彰和
伊達本恵夫
宮重井博
丹正藤孝雄
齐藤口武夫
江佐藤克明
河西野正充
浅野昭三郎
富武田清總
川石浜真治
原田寛一
山田静義海
佐藤合林信
石小源達也
滝合田千之助
小泉悦雄
赤木知彦
須原銀兵衛

三木武夫
三船通雄
小谷三郎
赤松光智
戸川誠也
岡村勲
下倉潔
本浦祐一
松川正次
石木元藏
赤木幸二

行政コーナー

橋本龍太郎
加藤六月
片山紀久郎
加藤武徳夫
岡崎平夫
藤木昌二
近藤昭治
同藤才昌二

海外部門

中華民國
邱仕榮
張榮茂
施振坤
林迺惠
李芳閻
謝教授
莊文忠
北島忠
叶オリンピック
ホテル社長、
ならびに副社長

タイ
Mr. C. H. Yop

Mr. Bao
Mr. Krirk
Mangkalabung
Mr. Kuson
Suchanya
Dr. Hideo Negro
Prof Udon
Posakrisana
Mr. Pramote
Lintrakul
Mr. Chuen Long
Son Doy
Mr. Suthat Toung
Mr. Prapat
Aungkuravanic
Sutham
Suphampngkol
Surachai Chunha
Chislapom
Pornchai Orpin
Chatree Laipunya
西野順治郎
南事務局長
佐藤敏光
下津雅代
Golden Palace
Hotel
堀之内富子

インド
Mr. Vinod Kumar
アジア救難センター
その他
関係者御一同様

ロータリー・
ライオンズ関係
高原重之
岡山ライオンズ
クラブ
岡山ロータリー
クラブ

倉敷ライオンズ
クラブ

倉敷中央
ライオンズクラブ

倉敷鶴形
ライオンズクラブ

佐野	吉内
虫明	圭山
山本	道智
三上	澄恵
山本	裕子
六車	清成
谷川	美三郎
中賀	善雄
大谷	善平
古本	英夫
山本	源治郎
土井	野清
間島	川俊
福川	善三郎
中新	谷三郎
小山	本照
小池	健太郎
徳山	井勝
姫井	本宏
橋本	田典
倉田	達夫

庄須	麻子
野一	色泰
武内	重樹
大原	敦敦
窪田	政寛
中原	東亜
高橋	清肇
小倉	津須
梅津	下圭
山藤	原巳
山藤	口三
大山	倉悦
和仁	橋政
大谷	洋紀
山中	島妙
薬師	寺定
為橋	三本
三下	吉岡
山酒	植井
	田礼

一般コーナー

永瀬	隆
片山	昇
前田	勇
藤井	宏一
久保	武七郎
中野	弘一
小野	千鶴男
三宅	勝也
山本	得太郎
堀航	空課員
大藤	家一男
山小	川日出夫
小森	泰庄
柳本	谷忠
梶田	原真
石千	林原
林小	野野
蜂黒	瀬知
西島	副社
中西	山太
中藤	国土
佐藤	樂器

福武書店KK
 広栄堂武田
 (有)志ほや
 岡山会館(KK)
 黒石商店
 塩見工務店
 三好野本店
 岡山土地倉庫(KK)
 両備バスKK
 スエヒロ
 松本組
 三共薬品岡山
 黒住典子
 岡田勝香
 上塚善治
 新松岡誠子
 宮川日々新聞
 岡山日本テレビ放送
 楠朝男
 近藤捷男
 菊地藤勝義夫
 井陶浪保道夫
 中横田本
 岡服部尊忠

装 備 リ ス ト

第一次アジア親善邦楽演奏キャラバン隊装備

- 楽器（琴五面，尺八八本，三弦二丁，ヴァイオリン一丁）
- 楽器包装用木箱並びにケース，包装用布
- 敷物（2畳分のもうせん4枚）
- 琴台五個
- 糸しめ器2個
- 琴糸五面分
- パンフレット（中国語，タイ語，英語，日本語）
- アンケート（中国語，タイ語，日本語，英語）
- 男子衣裳
 - は か ま
 - 白 着 物
 - ぞ う り
- 女子衣裳
 - 和服一式（ヴァイオリンのみ洋装）

医学踏査隊装備

- 救急用薬品
- 顕微鏡三台
- 蚊取線香・蚊帳
- 消毒用薬品及びせっけん
- マッチ
- スライドグラス，カバーグラス
- 白衣及び予防衣

会 計 報 告

1. [収入の部]		
収 入 総 額		1,096,800
(内 訳)		
一 般 寄 付 金		960,500
そ の 他		136,300
2. [支出の部]		
国内支出総額		800,948
(内 訳)		
荷 物 運 送 費		45,984
保 險 費		125,850
装 備 費		78,381
通 信 交 通 費		133,915
薬品医療器具準備費		103,739
謝 礼		53,284
報 告 書 費 用		210,000
雑 費		49,891
国外支出総額		245,756
(内 訳)		
交 通 費		19,746
運 搬 費		142,632
通 信 費		3,204
謝 礼		74,738
雑 費		5,436
3. 差 引 残 高		50,000